

JAPAN TOUR
WANDERLUST

TRANSMISSION

音楽は人々と分かち合うことでより価値あるものとなる、その信念のもと、ジョルジュ・ヴィラドムスは自ら企画するコンサートや演奏、自身が設立した財団である'Crescendo con la Musica'を通じ、困難な環境にある子供達と音楽、時間を共にする機会を提供することを自らの使命としてきました。

そして、また自分自身のルーツでもあるラテンアメリカ、特にメキシコの文化をもっと知ってもらいたいという思いも音楽を通して叶えていきたいと願っています。

音楽は社会構造を変える原動力となる、子供達が音楽を学ぶ機会を得ることは学習習慣、規律、好奇心を身につける上で大きな原動力になる、と信じ、現在Crescendo co la Musica財団は、3つの異なる方法で音楽の学習と研究を発展させています。

メキシコとケニアで貧困にあえぐ子どもたちや若者たちには、音楽が、生きる喜びや他者との関わりを持つきっかけとなり、より広い価値観に触れることで自分の道を変えられるということ伝えていきます。

スイス国内の音楽的才能ある子どもたちや若者たちには、奨学金を通じて、彼らがより多くの時間を音楽活動に捧げるために必要な支援を行っています。

演奏家として並外れた可能性を持つ若きアーティストには、CDのレコーディングや、音楽家としてのキャリアをスタートさせるためのサポートを提供しています。



ARTISTIC CONCEPT

一人はドイツ人、一人はメキシコ人。
ラテンアメリカとドイツの交流から生まれた宝石のような音楽を携えて、
海、国境、言語の壁を越えた自由な世界へ人々を誘ってくれます。

1世紀前、大西洋を越えたラテンアメリカの偉大な作曲家たちは
「古い大陸」で歓迎された後に母国に戻り、
主にサロンスタイルの作品を創作しました。
ヨーロッパのロマン派の伝統から大きな影響を受けながらも、
先住民やメスティーソの文化、民族舞踊やリズムといった
彼らのアイデンティティが反映されることで
西洋音楽の中でも独自の立ち位置を確立し、
奇跡的な魅力を放っています。

感情を呼び起こし、それを歌詞と音楽で表現し、
生命の息吹で活気づけるという普遍的な情熱。
WANDERLUSTとは旅に対する生来の強い欲求を指しますが、
未知のものを探索する情熱も含まれます。

このコンサートツアーのコンセプトは、
ラテンアメリカからドイツ、そして最終目的地の日本への旅です。
若い日本人アーティストも参加し、
シューベルト、シューマン、ボンセ、カストロ、ハン、
多くの作曲家の作品に命を吹き込みます。



JORGE VILADOMS

メキシコ生まれのジョルジュ・ヴィラドムスは、15歳の時に父を亡くしたことをきっかけに故郷で個人レッスンを受けてピアノを弾き始めました。わずか4年間後にはスイスのローザンヌ音楽院のプロフェッショナルクラス（現在のローザンヌ高等音楽院）に入学。

現在はコンサートピアニスト、ローザンヌ音楽院教授、クレッシェンド・コン・ラ・ムジカ財団の創設者、ロレックスメキシコアンバサダーと多方面で活躍、ニューヨークのカーネギーホール、リンカーンセンター、東京Bunkamura劇場、大阪フェスティバルホール、メキシコシティのディプロマティック・アカデミー・パラシオ・デ・ベラス・アルテス、そしてジュネーブのデ・フォース・モトリセスでもコンサートピアニストとしてデビューを果たしました。

さらに近年は指揮者のアロンデラ・デ・ラ・パラと共演、オーストラリアのクイーンズランド交響楽団でデビュー、スイスなロゼ・コンサートホールでは毎年コンサートに出演。さらにドイツ、フランス、メキシコ、南アフリカでのツアーも行っています。

スイスのスタインウェイ・ホール、アヌシー城、サン・ウルサンヌのピアノ・フェスティバル、サン・プレックス・クラシックス・フェスティバル、レブエルタス・フェスティバルなどのフェスティバルでソリストとして、オーケストラとも共演。ゴージェ・カプソン、フィリップ・カサル、ライオネル・コット、三浦文彰、カミュー・トーマス、チャーリー・シエムなどのアーティストと共演。

パリのフランス音楽局、ミュンヘンのバイエルン国立放送局の「ル・マタン・デ・ミュージシャン」「音楽家の手紙」などのラジオ番組に参加しており、ローザンヌ交響楽団のソリストとして指揮者のアレクサンダー・メイヤーと共演したコンサートは、メッツォテレビチャンネルでライブ録音されました。

ソニー・クラシカルおよびライオネル・コテットとのレコーディング『ラテンアメリカからパリへ』は、国際的なプレスと聴衆から高く評価されました。音楽と芸術をより多くの聴衆に共有するという探求を続ける中で、『Luz de Luna』プロジェクトを立ち上げ、パリのオペラ座バレエ団のスターダンサー、エルヴェ・モロー、オーレリー・デュボン、イザベル・シアラヴォーラと共演。その後もガラ・デ・ダンスなどのフェスティバルに参加するなど、ダンスの世界でも精力的に活動しています。



BENJAMIN APPL



ベンジャミン・アップルはグラモフォン賞ヤング・アーティスト・オブ・ザ・イヤー (2016年)、BBC ニュー・ジェネレーション・アーティスト・スキーム (2014~16年)、ウィグモア ホールの新進アーティスト、およびECHOライジングスター (2015~16年)のメンバーとして、ヨーロッパ中の主要会場、バービカンセンター ロンドン、コンサートヘボウ アムステルダム、ウィーン コンツェルトハウス、フィルハーモニー パリに出演。彼は幸運にも伝説の歌手ディートリッヒ・フィッシャー＝ディースカウの愛弟子として指導を受けました。

NHK交響楽団、ブレーメン・ドイツ・カンマーフィルハーモニー、シュターツカペレ・ドレスデン、フィルハーモニア管弦楽団、シアトル交響楽団、ウィーン交響楽団、ベルリン・アルテ音楽アカデミー、チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団、ハンブルク・パレエ、アカデミー・オブ・エンシェント・ミュージック、ガブリエリ・プレーヤーズ&コンソート、Les Violons du Roy、Concerto Köln、および複数のBBC オーケストラと共演。

ベンジャミンは、ソニーの専属クラシックレコーディングアーティストでもあり、彼の最初のソロアルバム「Heimat」はグラモフォンにノミネートされ、2017/18年度アカデミー・デュ・ディスク・リリック・オルフェ・ドールで栄誉あるディートリッヒ・フィッシャー＝ディースカウ賞（最優秀歌曲歌手）を受賞。また、BBC Radio 3で「A Singer's World」というタイトルの自身の番組を持っていました。

今後の出演予定として、クラシック・オペラ・カンパニーでのコジ・ファン・トゥッテのグリエルモ役での役デビュー、ニューヨーク市のパーク・アベニュー・アーモリーでのシューベルトのリサイタル、フィラデルフィア管弦楽団とのデビュー公演、サンドニ音楽祭でのバリ管弦楽団との共演などがあります。リール国立歌劇場、カーネギーホール、ジュネーブ大劇場、リンツ・ブルックナーハウス、ザルツブルク・モーツァルテウムでデビュー・リサイタルが予定されています。

MAYUKO ISHIGAMI

5歳からヴァイオリンを始め、8歳の時にローマ国際音楽祭に招待。

高校2年生で第77回日本音楽コンクール第2位、
併せて聴衆賞及びE・ナカミチ賞受賞。

第7回ルーマニア国際音楽コンクール弦楽部門第1位、
全部門最優秀賞及びコンチェルトデビュー賞受賞。

第5回宗次エンジェルヴァイオリンコンクール第4位受賞。

第14回チェコ音楽コンクールヴァイオリン部門第1位受賞。

2017年9月バルトークコンクールにて特別賞受賞。

題名のない音楽会、NHKクラシック音楽館、NHK-FM名曲リサイタルや
リサイタル・ノヴァ、NHK-FM「ブラボー！オーケストラ」等に出演。

NHKテレビではドキュメンタリーや、

東京交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団との共演も放送。

東京交響楽団、東京都響交響楽団、読売日本交響楽団、

日本フィルハーモニー交響楽団、京都市交響楽団、

仙台フィルハーモニー管弦楽団、大阪交響楽団、

大阪フィルハーモニー交響楽団、ブラショフ国立交響楽団、

関西フィルハーモニー管弦楽団、

東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、

旧 東京ニューシティ管弦楽団（現 パシフィックフィルハーモニア東京）、

セントラル愛知交響楽団など、

国内外で多数のオーケストラと共演を重ねています。



KANAKO KOJIMA

1999年京都市生まれ。

14歳からクラリネットを吉田誠に手ほどきを受ける。
東京音楽大学付属高校にて松本健司に師事したのち渡欧。

2018年9月よりローザンヌ高等音楽院にて
フローラン・エオーのもとで研鑽を積む。
学士号を取得したのち、2023年6月修士号を取得。
同年9月よりCAS課程にて、パスカル・モラゲスに師事。
その他、ペーター・シュミードル、
アレクサンドル・ベジェラリのもとで学ぶ。

2016年第21回KOBÉ国際音楽コンクールB部門にて第2位および優賞、
神戸市民文化振興財団賞を受賞。

2018年第14回ルーマニア国際音楽コンクール管楽器部門にて
1位およびicon arts transylvania賞を受賞。

2021年ルイス・ナオン作曲のclairiereを日本人として初めて演奏。



VENUES



OSAKA

TOKYO

TOKYO

浜離宮朝日ホール

1992年にオープンした客席数552席のシューボックス型室内楽専用ホールです。室内楽の繊細な音の響きを美しく生かすために最高の技術を駆使して設計・施工されました。1996年に米国音響学会が出版した『How They Sound ~CONCERT & OPERA HALLS』において「Excellent」に挙げられ、「世界で最も響きが美しいホールの一つ」と言われています。この評価は、残響・聴衆とステージの関係の親密度・音のバランス・音色の輝き・透明感・温かさ・質感などを技術的に測定する一方、演奏家や音楽評論家の意見も取り入れて総合的に判定されたものです。弱音による繊細な演奏もすべての座席で満喫できるホールとして、クラシックを中心に古楽からポップスまで、幅広いジャンルの演奏家やお客様に愛されています。2021年にはこの音響特性を生かしつつ、設備や座席をリニューアルし、機能の向上を果たしました。

<https://www.asahi-hall.jp/hamarikyu/music/>



住所 東京都中央区築地5-3-2
朝日新聞東京本社・新館2階

電話番号 03-5541-8710

ステージ 78.20 ㎡

座席 552席

ピアノ スタインウェイD-274 (3台)
ベーゼンドルファー275

控室 6室

ホワイエ 大589㎡ / 小103㎡ / クローク / バー

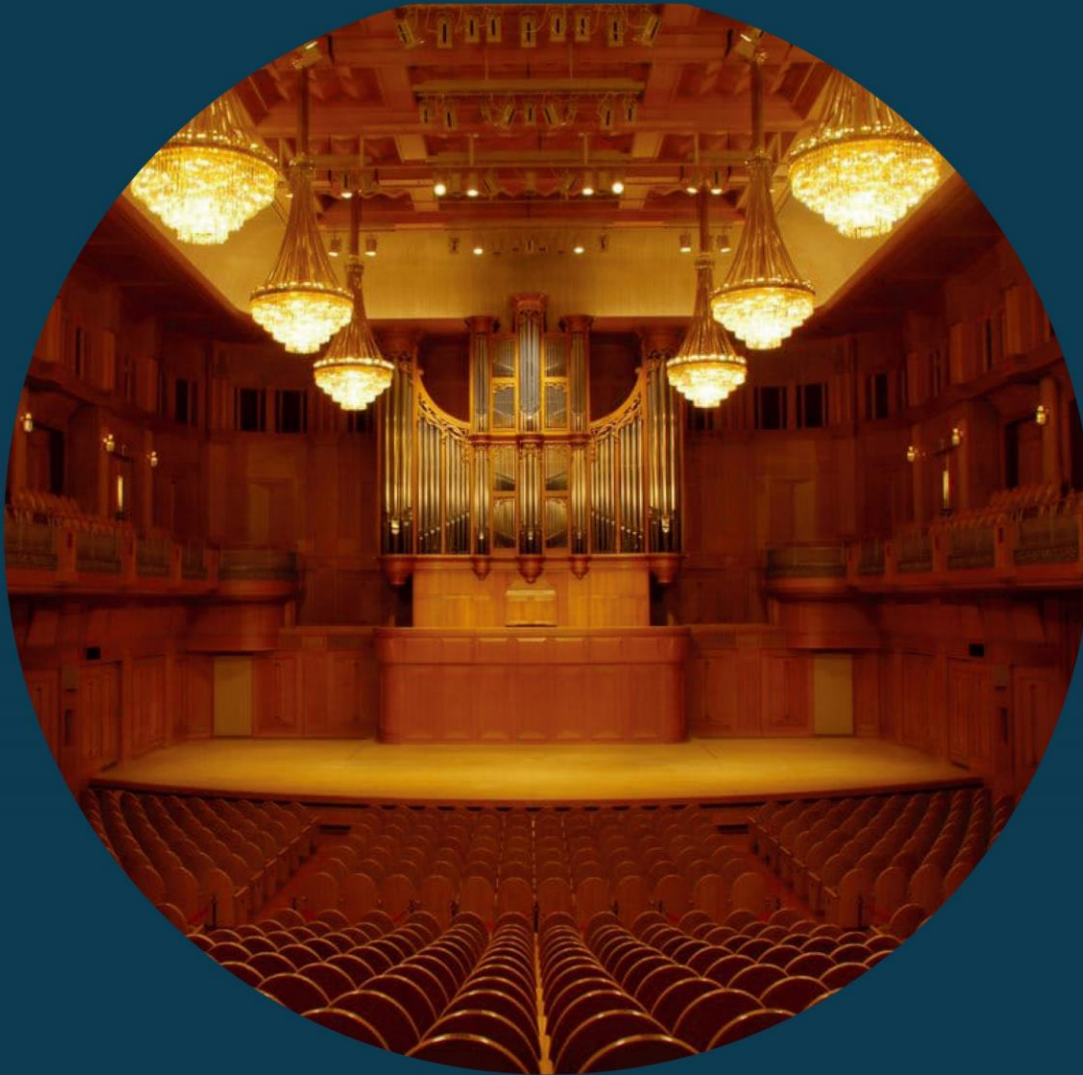
OSAKA

住友生命いずみホール

理想の音場の原点をウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の本拠地「ウィーン楽友協会大ホール」に求めた、シューボックス型で821席のコンサートホールです。天井や壁のデザインをはじめ、床、椅子、さらに8基のシャンデリアなどの緻密に計算された音響効果により、「楽器の集合体」に包み込まれるような空間を実現しました。残響時間はクラシックの室内楽にふさわしい1.8秒～2秒。互いの息遣いさえ感じられるステージと客席の一体感は、世界的なアーティストにも愛されています。

<https://www.izumihall.jp/hall>

住所	大阪府大阪市中央区城見1丁目4-70
電話番号	06-6944-2828
ステージ	70 m ²
座席	821席
ピアノ	スタインウェイD-274 (2台) ベーゼンドルファー290 / ヤマハCFIIIIS
控室	8室
ホワイエ	900m ² / クロック / ショップ / バー





JORGE
VILADOMS